



# オレゴン便り

発行:中野壘紀子

2014年

1月



2014年、明けましておめでとうございます。そして、富山第一高校サッカー部の皆さん、全国優勝、おめでとうございます。アメリカからインターネットで結果速報を自動更新しながら試合結果を見守っていました。優勝したと知ったのはオレゴンでは夜11時半頃だったのですが、感激しすぎて叫びそうになりました。本当に富山県民の誇りだと思えます。目標を達成するためには最後まで諦めないことが大切だということを改めて感じさせられました。私は、オレゴンに来る前の2年間、男子サッカー部の副顧問をしていたので、富山第一高校のサッカー場へも公式戦で何度も行きました。それも、今回の優勝はアメリカにいたとはいえ、本当に大感激だったので、2月の日本文化の授業で高校スポーツを紹介する際に、高校サッカーと今回の決勝戦についてもニュース記事などを用いて紹介しようと思っています。アメリカの子どもたちにも、最後まで諦めないことの大切さが伝わるといいです。

## 年賀状の交換

今年度も12月の授業で、日本の学生に向けて年賀状を書きました。私の担当する初級日本語Ⅱや日本文化と会話（中学生クラス）の児童生徒は、昨年9月末に日本人大学生を連れて派遣校SJSを訪問された北海道工業大学の先生のご紹介で、北海道厚真町の中学2年生の皆さんと1対1で年賀状交換を行うことになりました。子どもたちが書いた年賀状は、12月末に北海道に送りました。また、初級日本語Ⅰの児童生徒は昨年同様、私が以前勤務していた特別支援学校の生徒に年賀状を書いて送りました。さらに、私は授業を担当していませんが、中高生たちは、9月に交流した北海道工業大学の学生や埼玉県の高校生に年賀状を書きました。



2014年は午年ということで、多くの子どもたちは馬の絵を描いていました。初級日本語Ⅱの児童生徒は、年賀状の作成2年目ということで、宛名や「あけましておめでとう」を、とてもスムーズに書いていました。毎年、年賀状の作成を楽しみにしているという中学生の女子もいました。



北海道厚真町の中学生からは1月3日にSJS宛での年賀状が届きました。冬休みが終わり、6日(月)から授業が再開したので、その週に行われた授業で年賀状を一人一人に渡しました。届いた年賀状の宛名部分を表にしてホワイトボードに貼り、自分に届いた年賀状を探す活動から始めました。とても感激したのは、カタカナで書かれた自分の名前を探し当てるのがとても速くなっていたことです。同じような活動をした昨年、自分の名前を見つけられなかったり、探すのにとても時間がかかったり

する子どもがたくさんいました。あれから1年後、日本語を学び始めて1年4ヶ月の子どもたちは明らかに日本語の力を伸ばしていました。名前が呼ばれてホワイトボードのそばに行く前、すでに自分の席から自分の名前を見つけてしまっている子どもも多かったです。この成長ぶりに大感激しました。また、裏にイラストとともに書いてある日本語でのメッセージも自分でがんばって読み、分からない部分だけ私に聞いていました。

日本の年賀はがきに書かれた年賀状をもらい、子どもたちは大変嬉しかったようで、その後数日間毎日授業に持参する子どももいましたし、バインダーの表紙に大事そうに入れている子どももいました。北海道厚真町の中

学2年生の皆さん、本当にありがとうございました。また、初級Iの児童生徒たちも2月頃に富山の支援学校の生徒から届く返事の手紙を楽しみに待っています。



7～8年生が書いた年賀状



上級日本語クラスの生徒が書いた年賀状



北海道厚真町の中学2年生の皆さんから届いた年賀状を持って

## 学校行事「エキシビション」

12月中旬、SJSの学校行事「エキシビション」が行われました。今年度のテーマは、自作の本の出版でした。昨年度から英語の授業を使い、児童生徒はそれぞれ、小説などを書き準備を進めてきました。9月に入学した4年生は、上級生の書いた文章に挿絵を描きました。全校生徒88名が3グループに分かれ、3冊を出版しました。担当となった生徒が印刷会社に依頼し、本屋で売られているものとまったく同じように製本してもらいました。そして、小説などを入れた本2冊、絵本1冊ができました。



エキシビション当日は、生徒が保護者の前で朗読したり、どのようにして1冊の本として完成させたかなどを発表したりしました。また、生徒自ら、完成した本を販売しました。8年生でこんなに素敵な物語を書けるのかとびっくりするほど、上手に書かれた作品もありました。また、高校生の書いた作品は中学生のものとは異なり、難しい表現もたくさん使われており、アメリカの子どもたちの年齢に応じた英語表現の使い方も知ることができました。私も3冊購入したので、日本に帰ってから富山の高校生にも紹介したいと思っています。

